

令和 7 年度 県立古河第三高等学校自己評価表

目指す 学校像	<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校 ○ 自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒を育む学校 ○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
<p>大学の合格者数は国公立大学が 21 名、私立大学がのべ 390 名であった。国公立大学では前期日程で宇都宮大学に 10 名が合格した。昨年と同様、前期日程だけでなく、後期日程まで挑戦する生徒が増えた。引き続き、最後まで諦めない姿勢を生徒に喚起していきたい。入試の形態が多様化しているため、生徒が対応できるように指導していくことが今後の課題である。</p> <p>昨年度から組織的に取り組んでいる「総合的な探究の時間（SS）」を充実させていく。社会に開かれた教育課程の一環として、地域課題や社会貢献を念頭に多様な取組を展開する。</p> <p>部活動においては、生徒達は自主的にかつ積極的に活動した。特別活動や学校行事に関しても、文化祭や球技会を実施し、生徒の主体的な取り組みと共に望ましい成長を実感できた。</p> <p>生徒募集においては、8 年連続で志願者数が定員を下回った。第 2 次募集まで含めた入学者は増加しているので、最初から選ばれる魅力ある学校を目指し、広報の手段や機会をさらに工夫していく必要がある。</p> <p>これまで以上の教育活動の充実を図り、地域の伝統校として地域の期待に応えるとともに、信頼を確立する。主体的で積極的な学習意欲を喚起し、学びの楽しさを実感できる授業を目指し、豊かで確かな人間力の育成を図る。</p> <p>交通事故件数は減少しており、警察等との連携により安全教育の充実を目指す。学校安全に全職員で取り組む覚悟を持つ。</p>	1 生徒が希望する 上級学校進学を実現する	<p>① 1 年「自己発見」 2 年「自己発展」 3 年「自己実現」を目指し、進路行事や面談、普段の対話から生徒の知っている世界を広げる。</p> <p>② 進路講演会、「進路だより」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者に適切な情報を提供し、動機付けをする。</p> <p>③ 上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を促し、職業・大学・学部・学科について理解を深める。</p>	B
	2 家庭学習の習慣化	<p>④ 外部模試結果等の分析を定期的実施するとともに効率的な運用により、学習意欲を向上させ、学習時間を増進させる。</p> <p>⑤ シラバスや進路学習調査結果等を生徒に提供し、進路実現に必要な学習時間を定量的に分析し、生徒自身に中・長期的学習計画を立てることの重要性を認識させる。</p>	B
	3 豊かな人間性を身につけるための取り組み	<p>⑥ 授業や課外活動を通して生徒の自己有用感を高揚させ、生徒の自律・自立の心を育てる。</p> <p>⑦ 豊かな人間性を育むために、教養講座や、図書館の蔵書を有効に活用する。</p> <p>⑧ 集団活動や体験活動を通して生徒の社会性を育み、併せて実践力の向上に努める。</p> <p>⑨ 部活動・生徒会活動・JRC 活動・学校行事など教科外活動を充実させ、キャリア・パスポートを活用して責任を持って行動する態度を育てる。</p>	A
	4 広報活動の充実	⑩ 学校公開・中学校訪問・塾対象説明会・ホームページの活用を通して、小・中学生やその保護者や教員に対して、積極的に本校の良さをアピールする。	A
	5 個に対応した指導	<p>⑪ 生徒との信頼関係を築くため、担任との三者面談週間を少なくとも年 2 回実施する。また、二者面談も積極的に実施する。</p> <p>⑫ 学習指導要領に対応した授業進度・レベルを再考し、理解力向上を図る。</p>	B
	6 学校安全の徹底	⑬ 学期毎に実施する定期点検の内容と精度を高め、全職員・全生徒の防災意識を高め、危機察知能力の向上を図り、安全安心な学校環境を実現する。	B
	7 働き方改革の推進	⑭ みんなで協力する体制づくりをすると共に、時差出勤制度を積極的に活用し超過勤務時間の減少を図る。	B
	8 授業改善	⑮ 生徒の学力向上のため授業第一主義を掲げ、授業力向上を意識し、教員相互の授業見学を定期的実施するなど、授業の質向上を図り、生徒の授業満足度 80%以上を目指す。	A

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

三つの方針		具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。 ○自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒 ○自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒 ○柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒	B	教育理念である校訓に沿った教育活動を創出、 <u>展開</u> し、理念の具現化を図っていく。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○授業こそが最も実力を上げる場であることを浸透させ、三年間の生徒育成計画のもと密度の濃い授業の実践・研究を図る。 ○勉強・部活動・学校行事、それらすべてに関わる総探SSを通して、多様な人々との対話のなかでコミュニケーションをとりながら社会貢献を目指すグローバル市民の育成を図る。 ○確かな学力をもとに将来への目標を生徒自ら設定し、進路希望実現のために邁進できるアクティブラーナーを育成する。	B	目標を高く持ち学力向上のための自律的な学習態度を育成する。特別活動や探究活動等に主体的に取り組む生徒の育成を図っていく。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○意欲にあふれ、自ら学び行動する生徒。 ○多様性を尊重し、対話を通じてコミュニケーションをとりながら社会への貢献を目指す生徒。 ○将来、地域の政治・経済・文化等を牽引することができる生徒。	B	本校の特性を様々なアピールし、志願者増を図っていく。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る	・三学年全体を対象とした小テスト(漢字)を行い、学習意欲を高めつつ学年ごとの学習への理解度を把握する。	B	・オンライン教材(スタディサプリなど)の活用が十分でなかったため、その活用を図っていきたい。 ・副教材の使用方法について、授業の中でさらに活用を進める。 ・教材の年度更新
		・個に応じたきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にする。	B	
		・学習内容の定着のため、教員へ質問しやすい環境を作り、放課後等を効果的に利用する。	A	
	進路実現のため自主学習定着に努める	・ノート・課題等を定期的に点検し、自主学習の習慣をつける。	B	
		・予習・復習のやり方、模試の解き直し等の指導を通じて、継続的に学習する方法を身につけさせる。	B	
		・進路学習部が主催する小論文模試が円滑に行われるよう、国語科として事前指導などのバックアップを行う。	A	
		・大学入試の傾向と対策を指導し、自主学習の内容に役立たせる。	A	
わかる授業の工夫、改善に努める	・シラバスを作成し、目標に添った授業計画を立案する。	B		
	・各種研究会、研修会に参加し、自己研鑽に努める。	C		

評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

地歴 公民	基礎学力の向上と定着及び授業研究の推進	・小テスト・課題プリント・レポート等を用いて、基本的事項の確認と確実な定着を図る。	B	B	・教員間の研修があまり実施できなかったため、教科内での授業参観等の機会を設けていきたい。
		・わかりやすく効果的な授業を目指し、教員間の研修を行う。	B		
		・生徒の自発的学習を促し、学習意欲を高められるよう、授業を工夫する。	C		
		・知識・理解の定着のために、問題集を効果的に活用する。	A		
数学	基礎・基本の定着を促進する	・单元ごとに考查を実施することで、学習のつまづきを早期に発見し対応する。また、必要に応じて補習を実施する。	B	B	・模擬試験の分析をして生徒の表現力を高めていく必要がある。 ・あわせて学習アプリの効果的な使用方法を検討していく。
		・映像資料やパワーポイント、1人1台端末等のICTを活用し、数学的な事象に対する関心や理解を深める。	B		
	家庭学習の習慣化に努める	・考查ごと（定期的）に問題集用のノートを提出させることで、家庭学習の動機付けを行う。	B		
		・長期休業中には課題を与え、学期中の復習ができるようにする。	B		
		・シラバスを元に目標を意識させ、計画的に予習や考查の準備ができるようにする。	B		
		・模擬試験を利用して、家庭において発展的な内容に自主的に取り組む習慣を付ける。	B		
	進路実現のための指導を工夫する	・模擬試験を通して、学習の定着の状態を認識させ、自分の課題に気づかせる。	B		
		・各種課外では、レベル別講座やコース別講座など講座内容を工夫して実施する。	B		
		・各研修会に参加し、入試問題などの分析を行い、生徒に還元する。また、互いに授業見学を行い、研修に努める。	B		
	理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	・小テストを実施し、課題を提出させることで知識の定着を図る。		
・映像資料やスライド等のICTを効果的に活用し、自然の事物・現象に対する理解を深める。			A		
・基礎的な観察・実験の技能を身に付けさせる。			B		
・3年では課外授業を通して発展的な内容に取り組み、学力向上を図る。			A		
科学的な思考力・表現力の育成を図る		・既習の知識をもとに、観察・実験の考察を行い、表現させる。	B		
		・グループで意見交換をするなど、対話的な学びを促進する。	B		
科学的に探究する態度を育成する		・観察・実験を通して、自然現象への興味・関心を育み、考察させるなど、科学的に探究する力の育成に努める。	C		
授業改善を主とした指導力の向上を図る		・相互授業参観を通して教科内で情報を共有し、授業改善に努める。	B		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

保健 体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	・各単元の種目の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	B	B	・各単元において、グループ活動時間を増やして、自己や仲間の取り組みの合理的な解決方法を身に付けさせたい。
		・体育や保健の各単元を通して、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。	B		
		・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	A		
芸術	芸術に対する興味・関心の向上	・鑑賞、表現活動のバランスのとれた授業を実践し、様々な美的体験を通して、芸術への興味・関心を高める。	A	B	・鑑賞力・表現力の育成に向けて、他校の授業実践例等を参考に題材の選定、実践を行いたい。
	鑑賞力・表現力の育成	・芸術と様々な文化（歴史・風土・言葉・諸芸術）との密接な関連を理解させ、鑑賞力を育てる。	B		
		・生徒の自主計画による学習を实践、知識と技能を結びつけて表現する力を育成する。	A		
外国語 (英語)	基礎学力の定着	・1学年では、英和辞書や参考書、音声教材などを効果的に活用する学習習慣を確立させる。読んだり聞いたりした英文の内容を理解させ、身近な話題に関する自分の考えや意見を発信する力を養う。	B	B	・英語の基礎・基本を身に付け、土台を固めながらスキルアップをはかる。 ・デジタル教材などを活用し、日常的に表現活動を行う。 ・様々な長文を読み、大学受験に対応できる読解力を身につけさせたい。
	演習の充実	・2学年では、文法等の知識を定着させるとともに、まとまった量の英文の内容を素早くつかめる読解力を身につけさせる。また、考えや意見を伝え合ったり、まとまった量の英文を書いたりすることで、自ら英語で表現する力を育てる。	B		
	入試レベルの実力の養成	・3学年では、これまでに培った英文法や語法の知識を活用して、長文の主旨や要点を速く正確に読み取る力をさらに伸ばし、大学受験に対応できる実力をつけさせる。また、様々な情報や意見を多角的に分析・検証し、自分の判断を加えて論理的に文章や言葉で表現できるようにする。	B		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

家庭	基礎的知識と生活技術の習得・向上	・多様な発問と教材の活用により、学習内容に興味・関心をもたせ、日常生活に必要な基礎的知識を習得させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・効率の良い実技指導を工夫する。 ・施設・設備・教具を整備し、円滑な授業を実践する。 ・社会の変化に応じた生徒が興味・関心をもてる教材を選ぶ。 ・生徒自身が成長を感じられるわかりやすい授業をする。
		・実習・実技試験により生活技術の習得・向上を図り、生徒自身が成長を実感できる授業を展開する。	B		
	社会生活の充実・向上に繋がる実践的態度の育成	・社会的問題に繋がる家庭的課題を取り上げ、家庭と社会の繋がりに関心をもたせる。	B		
		・調べ学習や発表を通して様々な価値観に触れさせ、生徒の選択肢を拡げ、判断力と実践的態度を育てる。	C		
		・日常生活で即実践できる取り組みを考えさせる。	C		
	課題解決能力の向上	・実験・実習では、課題を明確にし、個人目標・グループ目標を設定させ、協力して取り組ませる。振り返りをその後の生活に生かせるようにする。	B		
・課題解決学習「ホームプロジェクト」を通し、家庭における自分の役割を認識させ、個々の自立や家庭生活の改善・向上に生かせるようにする。		C			
情報	情報社会に主体的に参画するための資質・能力の育成及びメディアリテラシーの醸成	・問題解決に関連したデータの収集・分析を行い、情報活用能力を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングやデータサイエンス、共通テスト等に関する最新の情報の収集, 研鑽を積む
		・情報及び情報技術を活用した授業を行い、問題解決能力を育成する。	B		
		・情報社会の問題点について考えさせ、情報モラルやマナー、知的財産権等を理解し、情報活用のリテラシーを身に付けさせる。	A		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

教務企画	授業時間の確保	・授業時間確保に努め、出張等の授業の振替率96%以上を維持する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、考査等の見直し ・学習評価の内規の周知徹底 ・定期考査未受験者の確実な把握および追考査の円滑な実施 ・図書館の蔵書の整理 ・PTA活動への教職員参加促進を図るための施策
		・授業時間の有効な利用のためにも「授業開始のチャイムは教室で聞く」という、共通理解を徹底する。	A		
		・曜日別の授業予定時間数をもとに定期考査ごとに曜日変更を行い、可能な限り総授業時間数の均一化を図る。	A		
	広報活動の充実	・学校公開・中学校訪問・塾説明会等を通して、小・中学生やその保護者や教員、また地域に対して、積極的に本校をアピールする。また、HPを有効に活用する。	B		
		・魅力のある学校案内・学校紹介ポスターを作成・配布し、本校の特徴を中学校・塾に伝える。	B		
	教育課程の改善	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や学習評価の工夫、教育課程の改善を図る。	B		
	校務支援システムの活用	・統合型教務支援システム(教助)の運用体制の確立を図る。	B		
	図書館利用の促進	・生徒の読書活動・読書指導の場である「読書センター」としての充実を図る。	B		
		・生徒の学習活動支援・授業充実の場である「学習センター」としての整備を図る。	B		
		・生徒・教職員の情報ニーズへの対応や情報収集・選択・活用能力育成の場である「情報センター」としての充実を図る。	B		
		・図書専門委員会を定期的で開催し、図書館便り・カウンター業務・展示コーナー作成・行事参加・生徒図書委員研修会への参加等、生徒が積極的に動ける委員会活動を目指す。	B		
		・総合型入試や推薦入試に対応できる書籍・資料の充実を図る。	B		
		・授業や受験勉強に利用できる図書館・視聴覚室作りを進める。	B		
学校と保護者、同窓会との連携を密にして、PTA・同窓会の活動の円滑化、充実を図る。	・PTA総会や授業参観、学校公開・文化祭等の各種学校行事への参加を保護者に呼びかける。	B			
	・本校のホームページ等を利用してPTA活動の広報に努める。	B			
	・地区別PTA等のPTA活動に教職員も積極的に参加する。	B			

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

進路学習	I 10月実施の進路希望調査にて進路の別の未定者を各学年2%以下にする。	1年「自己発見」 2年「自己発展」 3年「自己実現」 ・進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて学年の適切な進路・学習指導をサポートする。	B	B ・今年度は進路指導の体制整備と業務の可視化が大きく進んだ一方、運用の現場では模試・課外・行事、教員間の共通理解の形成など、学校全体としての進路指導に向けた具体的に取り組める仕組み作りが求められる結果となった。
	II 10月実施の進路希望調査にて大学進学希望者の学部系統別未定者を1年 25%以下、2年 10%以下、3年 5%以下にする。	・生徒の進路希望状況を分析し、希望実現をサポートする。 ・進路行事や面談、普段の対話から生徒の知識を広げ、進路選択の一助とする。		
	III 民間就職内定率 100%を継続する。	・進路講演会、「進路便り」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者・教員に適切な情報を提供し、動機付けをする。	B	
	IV 進路調査における第一志望現役合格率 50%以上にする。	・上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を勧め、職業・大学・学部・学科について理解を深める。	B	
	V 国公立大学・難関私立大学合わせて 50 名以上の合格者を出す。	・生徒の進路希望に応じ、効果的で十分な指導を検討・実践する。 ・入試・模試結果を分析し、学年や教科の実態を把握し、学習・進路指導の改善に努める。	B	
生活環境	1 基本的な生活習慣の確立	・HR や各授業、集会等での服装・容儀指導	B	B ・SNS の適切な利用やいじめ防止については常に注意喚起が必要である。 ・自転車の乗り方についてもマナー向上に努めたい。 ・感染症予防のための指導及び環境を整える。
		・三高デー（校外登校指導）	A	
	2 心身の健康増進	・日常的、定期的に健康観察・保健調査・健康診断・健康相談を実施し、生徒の心身の管理に努める。	A	
		・病気や感染症予防の知識を習得させ、健康増進を促す。	A	
		・スクールカウンセラーとの連携を密にして、多様化する生徒の悩みに対応する。	A	
		・交通安全教室 「スマホ」安全教室 性教育講話 〈1 学年対象〉	B	
	3 安全教育の推進	・薬物乱用防止教室 〈2 学年対象〉	A	
		・防災避難訓練	A	
		・生徒とのコミュニケーションの緊密化	A	
	4 危機管理体制の強化	・年間 2 回のアンケート調査及び不定期の被害調査等によるいじめ等の未然防止・早期対応	A	
		・保護者・地域・関係機関との連携強化	A	
		・SNS の正しい利用についての意識啓発	B	
5 社会人としてのモラル・マナーの習得	・生徒会を中心とした自主規制意識の醸成	A		
	・清掃用具の管理、清掃指導を通して学校環境の美化等情操面を養う。	A		
6 学校環境の整備	・教室内の空気・照度・飲料水等の環境生成検査、校内の安全点検を実施し、安全安心な学校環境を実現する。	A		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

特別活動	特活関係行事全体を見直し、生徒の自主的活動を推進する体制を整備する	・各行事の計画は、年間計画を見据えた上で立案する。	B	B	・年間計画の見直しが必要。 ・文化祭・球技会におけるの安全管理の徹底。
		・各行事の企画・運営にあたっては、各学年や各分掌との連携を十分に図る。	B		
		・各行事では、生徒の自主性・創造性が発揮できる環境や機会を提供できるように計画する。	A		
	生徒会活動の活発化と充実を図る	・各委員会の計画的で活発的な活動を推進する。	B		
		・文化祭・球技会では、生徒の自主性・創造性が発揮できるように十分検討し、改善する。	A		
	部活動の充実	・運動部への加入率を増加させるとともに、退部する生徒数の減少を目指す。活動時間を確保し、心身のたくましさや豊かな心を育成する。	B		
・部活動の運営・予算等の問題点について検討し、改善を図り、施設・設備の充実に努める。		A			
探究推進	行事の計画・実施を行う	・チームキャンプ、分野毎中間報告会、SS 成果報告会の行事を運営する。	A	A	・SS2の充実のために成果報告会の在り方を考える。 ・スタート時に承認印チャレンジを新規実施し、探究の充実にを図る
	総合的な探究の時間「SS」の計画実施を行う	・「SS」の意義等を周知するための説明を生徒・教員に適宜行う。	A		
		・「SS」の円滑な運営のために、教員間での相談を密にする。	B		
		・「SS」の反省が次年度に生かせるように改善する。	A		
	関係機関との情報交換と協力の依頼	・外部との意見交換等を行い、協力機関等を新規に開拓する。 ・古河市商工会、青年会、古河市企画課と連絡を取り合い、新規事業の可能性を模索する。 ・市教育委員会との連携を強化し、事業を計画する	A		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

1 学年	基本的な生活習慣の確立	・挨拶や礼儀、普段の言葉遣いや身だしなみ等、きまりを守る生徒を育成する。	A	A	・挨拶は概ね良好である。一方、今すべきこととすべきでないことを判断する力をもっと身につけさせたい。
		・欠席・遅刻・早退をしないよう規則正しい生活を心掛けさせ、日々の体調管理に気を配る。欠席・遅刻連絡を含め、保護者との連携を密にすることで、学校と家庭との協力体制を構築する。	A		
		・面談等を通し、生徒個々へのきめ細かな指導を行うための共通理解・情報共有を行う。	A		
		・授業の開始時間や行事等の集合時間を守るなど、時間を厳守する態度を育てる。	A		
		・清掃や委員会活動などにおける役割分担を明確にし、所属意識を醸成する。	B		
		・「今、すべきことは何か」を考え、状況に応じた適切な態度・行動ができる生徒を育成する。	B		
	基礎学力の向上	・将来に向けた具体的なイメージを掴むことができるよう、段階的に進路情報を明示する。	A	B	・学習調査の結果を見ても、家庭学習が習慣化している生徒が少ない。進路意識と関連付け、習慣づけに粘り強く取り組んでいく。
		・3年後の自己実現を図るため、学習の積み重ねの重要性を理解させ、家庭学習の習慣化を促す。	B		
		・授業を大切にす姿勢を身に付けさせ、課外や校外講座を積極的に利用しながら、考えを深める体験をさせる。	A		
		・定期考査や校外模試への動機付けを積極的に行い、偏差値 50 を超える生徒が半数以上、55 を超える生徒が 50 名以上を目標とする。	B		
		・成績不振の生徒及び保護者に対して学年主任面談を行い、家庭の協力を求める。	B		
		・成績と学習時間の相関関係や学習の成果を見える化し、生徒のやる気を喚起する。	B		
良好な交友関係・連帯意識の育成		・スプリングセミナーを実施し、新たな交友関係の構築及びクラスづくりの一助とする。	A	A	・人間関係のトラブルはしばしば報告されるが、学年職員で情報を共有し、常に生徒の行動を観察し、必要があれば介入できる体制を整えている。
		・LHR等を利用したクラス単位の活動や学年単位でのクラスマッチ等のレクリエーションを通し、集団の一員であることを自覚させ、連帯意識の向上に努める。	B		
		・文化祭や球技会等の学校行事、部活動やボランティア活動等に積極的に参加できるような声かけを行い、協力し合える雰囲気をつくる。また、安心安全な教室環境作りに努める。	A		
		・探究活動を通して自己の意見を深化させ、多様な意見を享受しながら「敬愛」「自立」の精神の育成を図る。	B		
進路の意識付け		・LHR、授業時間を通して学習の意義と目的を考えさせる。	B	B	・進路行事を通して意識付けはしているが、実際の学習行動に結びついていない。
		・事後の教科指導に反映させるため、外部模試の後には分析会を実施する。	B		
		・文理分け説明会や進路講演会、三者面談を通して、生徒および保護者の進路意識を向上させることで、2年次の適切な文理選択を実現する。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

2 学年	自己管理力の育成	・生徒心得等のきまり（礼儀・身だしなみ・挨拶・SNS の利用等）を遵守する規範意識を高める。	C	B	・身だしなみ指導に課題がある。
		・欠席・遅刻・早退をできるだけしない雰囲気づくりをする。欠席・遅刻等が多い生徒は、保護者との連携を密にし、面談等のきめ細かい指導をする。欠席・遅刻・早退をする際は、保護者から学校へ連絡することを徹底させる。	B		
		・着席してチャイムを待つ、集合時間を守るなど、時間を遵守する態度を育てる。	B		
		・清掃・委員会など役割分担を明確にし、自ら考え責任をもって行動する態度を育てる。	B		
基礎学力の向上	基礎学力の向上	・進路目標の設定と実現に向けて、学習の積み重ねの大切さを理解させる。特に授業に真剣に取り組み、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。	B	B	・生徒の自主性に任せ家庭学習をさせると改善が難しい。小テストの頻度を上げる等の対策が必要。
		・家庭学習の重要性を意識させ、「予習⇒授業⇒復習」のサイクルが継続・習慣化するように指導する。	B		
		・課外、校外模擬試験に積極的に取り組ませる。なお、校外模試において偏差値 50 を超える生徒が 80 名以上、55 を超える生徒が 30 名以上を目標とする。	D		
		・学期末に成績不振の生徒の保護者を召喚し、本人への指導と家庭の協力を求める。	B		
主体性および連帯意識の育成	主体性および連帯意識の育成	・探究活動や各教科等での横断的な事前指導を踏まえ、目的意識をもって主体的に修学旅行に臨ませ、充実したものとする。	A	A	・自主自律を促進させる取り組みが必要。
		・文化祭や球技会等の学校行事に主体的に参加させる。	A		
		・LHR等を利用したクラス単位の活動や、学年単位でのレクリエーション行事を生徒主導で実施することにより、自主性および連帯意識の向上に努める。	B		
		・部活動・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、「敬愛」「自立」の精神を育み、主体的に行動できるリーダーの育成を図る。	B		
進路目標の設定	進路目標の設定	・様々な進路行事を通して学習の意義と目的を考えさせ、日々の積み重ねが進路実現に関わることを理解させる。	A	A	・小論文作成等をLHR など学校の授業時間で指導できるようにする。
		・卒業生との懇談会等の進路行事や「総合的な探究の時間」の授業等を通して、自己の適性と進路の方向性を見極めさせ、次年度の適切な進路選択を実現する。	B		
		・外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導の連携を図る。	B		
		・各種講演会や三者面談、卒業生との懇談会を通して、受験に対する心構えや知識を深め、次年度は受験生であるという自覚と意識をもたせる。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

別紙様式2 (高)

3 学年	自律的な精神の育成	・ 社会生活において基本となる身だしなみや言葉遣い、挨拶などの重要性を理解させ、自主的に実践することを徹底させる。	B	B	・ 基本的な生活習慣の指導が難しくなってきたと感じる。1 学年から「学校として」の共通理解をもって指導に当たっていききたい。
		・ 自己管理の意識を高め、欠席・遅刻・早退をしない基本的な生活習慣を身につけさせる。また、期日を守る大切さを理解させる。	B		
		・ 生命を尊重し、互いに安心・安全な生活を送るため、交通ルールや社会法規を遵守する態度を育てる。	B		
		・ 社会規範を守りながら、適切に SNS 等を利用できるよう、啓発する。	B		
進路実現に向けた学力の獲得		・ 一人一人の生徒が希望する進路を実現するための、十分な学力を身につけさせる。	B	B	・ 「学習」への意識づけを行った上で、学習習慣の定着を図ったり、模試の振り返りを計画的に行ったりさせるとよい。
		・ 授業をより充実したものにするために、「予習⇒授業⇒復習」を徹底させ、学習内容の定着を促す。	B		
		・ 積極的に課外授業への参加を推進し、学習指導の充実を図る。	B		
		・ 自ら学習する姿勢を育成することで、受験生として必要な学習時間を確保し、学習の質を高めさせる。	B		
連帯意識の醸成		・ 学校行事に主体的に参加させ、クラスや学年としての集団への帰属意識と連帯感をもたせる。	A	A	・ 自主自律を促進させる取り組みが必要。 ・ リーダーシップを取れる生徒を育てる意識をもって臨む必要がある。
		・ 学校行事や部活動を通して、組織をリードすることのできる生徒を育てる。特に部活動においては、最高学年としての役割を果たすように意識させる。	A		
		・ 体験活動や校外での活動に積極的に参加させることで、相手を思いやり、互いに協力する「敬愛」の精神を育む。	B		
進路希望の実現		・ 校訓である「自立・敬愛・創造」の意義を十分に理解させ、それらを実践することで進路実現へと導く。	B	B	・ 受け身の生徒が多く、早い段階からの計画的な指導が必要である。 ・ 三進合同会議等、共通理解を図り、計画的に進めることは継続したい。
		・ 自分の進路について様々な角度から主体的に検討し、目標に向けて自主的に努力し、「自ら動く」姿勢を身につけさせる。	B		
		・ 外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導との連携を図る。	B		
		・ 国公立大や難関私大等、目標を高く設定し、進学校古河三高と生徒の進路実現の一体化を図る。	B		

評価基準

A : 十分達成できている

B : 達成できている

C : 概ね達成できている

D : 不十分である

E : できていない